

# インターンシップ生の声

**姜 旻憲さん（立命館大学国際関係学部）** 実習期間 1 ヶ月

留学生である私にとって、インターンシップは超えられない大きな壁のように単純なことではなかった為、応募することには勇気が必要であった。

留学生活を通し自分が色々な面で成長したと思っていたが、社会生活を送りながらどんなに未熟であるかに気が付いた。いくら頭の中で理解していても、体で実際に経験してみることは全く違うということも自覚できた。

また、社会人になって働くということがどんなに責任感が必要であるかも学んだ。

一人前になるということは、単に大人になることとは異なるのではないかと思った。

実際に社会に出てみたら、大人であっても責任感とか自分の位置も知らずに行動する人も多いただろう。それに対し、若いけど自分が行った行動に責任を持って、最後まで行動するのが一人前ではないかと思った。研修をさせていただきながら、成長しても大人ではなく一人前になりたいと思った。

今回の研修で得た社会経験だけでしか学べない貴重な体験は、私の人生にとって非常に役に立つと思われる。

**川添 響子さん（京都大学文学部）** 実習期間 3 ヶ月

私自身は、まず具体的な事業内容（＝仕事をする）を希望していたので、実際の事業の中から随時仕事を与えていただいてよかったと思います。

業務を通して自分が今までに新聞や大学の授業で得た知識が現状の社会と有機的に結びつき、机上の理論ではない知識の使い方を学ぶことができました。

ただ、自分の考えがまとまってくると、得たものを実際に使って何か形にした上で一般に発表する場がほしくなってきました。その点で HP の作成は自分の目標になり、とても有益でした。（実際に作られたページは [こちら](#)）

行政にかかわる前に、民間機関が具体的にどのような活動をし、限界や可能性を見出したかと思ってインターンシップをしてきました。自分がどのような仕事をしたいのかを考える上で、今回の経験はとても参考になりました。自分の自信にもなり、よかったと思います。